

私が住む通称グリーンタウンには毎月第三週の木曜日に散策する「もくもく会」がある。会長はバードウォッチングが趣味の原田さんである。三月は「一の堰ハラネ」の「春めき桜」を見に行った。二時間半の歩きと行き帰り一〇分ほどの電車であった。

● さんざめく娘らの声車内に満ちローカル線は春を運びぬ  
高校生が催しがおわり、集団で大雄山線の車両に乗り込んできた。賑やかなことこの上もない。皆軽装で春がきたことを思わせる。

● 白八重の花嫁衣裳を思わせる花咲揃い鄙ひなは春めく  
「一の堰ハラネ」とは怒田丘陵に広がる三百メートル程の斜面である。その高さは四から五メートルほどだろうか。染井吉野とは異なり、八重に近い白い桜がいっぱい咲き揃っていた。カンヒザクラとシナミザクラの交雑種とされる「春めき桜」は南足柄市が発祥の地で別名「足柄桜」とも呼ばれるらしい。

● 我が庭に香り漂い春盛り今年も楽しむ沈丁花かな  
庭の片隅で枝を刈りすぎ枯れてしまいかもと心配した沈丁花が、どうにか生き延びて好い香りを届けてくれた。

● 都よりはるばる下り足柄の丘の辺に死す範茂無残のりつげ  
後鳥羽上皇と順徳天皇が鎌倉幕府を倒そうと起こした承久の乱で捕らわれ、鎌倉へ送られる途中「足柄街道」沿の小川で入水死させられた藤原範茂の宝篋印塔ほうきょういんとうが小高い丘の上にある。享年三十七歳であった。さぞかし無念な思いであっただろう。

● 苔生しし下水堰したみずきて浮かべるは復古の夢か栄華の夢か  
範茂は斬首を拒み、小川の水を堰き止めて入水死したと伝えられる。その時に残した歌がある。「思いきや苔の下水せき止めて月ならぬ身の宿るべきとは」